

BOAT TIMES

<Vol. 129>

2016 / 1 / 22 発行

編集 椎名 孝行

桑野造船株式会社

〒520-0357 大津市山百合の丘10-1 TEL: 077-598-8090 FAX: 077-598-2505

URL: <http://www.k-boat.co.jp> E-mail: kuwano@k-boat.co.jp

あけましておめでとうございます。オリンピックイヤーですね！今年も桑野をご愛顧いただけますよう、がんばってより良い船作りの努力を続けていく所存です。暖冬が年を追ってひどくなっていくような感じですが、ここにきてようやく冬らしい景色と寒さになってきました。コストを考えるとついつい暖冬冷夏のほうが都合良い…と悪魔のささやきも聴こえますが、やはり春夏秋冬、きちんとしているほうが結局は人心に良い影響を与える気がします。冬季に艇庫を閉じておられる水域では、春を待ちつつ陸トレに励んでおられることでしょうか。冷たい水の中漕ぎ続けられておられる方は、どうか万一を考え十分な安全対策を。日々それぞれの充実したとりくみを心より応援しております。【小沢】

●屋外保管艇への5つの気配り

競漕艇は艇庫内で保管されるかと思いますが、艇庫の容量や遠征などでやむを得ず屋外保管する事もあるでしょう。遠征などでの短期の屋外保管に神経質になる必要はありませんが、日常の長期保管では、以下の艇劣化要因に気を配り、艇を長持ちさせましょう。

- ①アームやラックの位置：ボートラックやウマを適切な位置に置き、「ねじれ」や「たわみ」が起きないようにする。
- ②日射（特に紫外線）：日陰保管するか、直射日光の当たる所ではカバーをかける。特に、アラミド（ケブラー）は紫外線に対して相対的に弱いので、あめ色の繊維やハニカムが直接見える箇所が常時直射日光にあたり続ける事は避けたい。（但し、アラミドに限らず樹脂や木材などは紫外線で劣化するものなので、通常使用ではあまり神経質になる必要はない。）
- ③温度変化：屋外では特に温度変化が激しいので、できれば温度変化を少しでも和らげるほうが良い。カバーなどを検討し、また日射やエアコンの排熱などで艇の温度分布が極端になることもできれば避けたい。
- ④氷結劣化：水分が亀裂や隙間の内で凍ると、体積膨張の作用により亀裂を押し広げる。損傷を放置せず、水濡れを避ける。
- ⑤湿度と微生物の作用：特に木造艇・木製部品への作用として、高温多湿でうっそうとした林の近くなどでは「木材腐朽菌」が活発に活動し木材を腐朽させることがある。風通しよく乾燥した環境にする。

艇の自重・紫外線・温度・水（水）・微生物…5つの要素に気を配り、艇を気持ちよく休ませてあげれば、きっと練習で、レースで、艇はクルーの為に頑張ってくれてくれることでしょうか！【小沢】

●マシンローイング近畿大会に海外トップ選手参戦！

1月17日（日）に開催されたマシンローイング近畿大会に合わせ、オランダとカナダの選手とコーチが来日！オランダからは、ロンドン五輪LM4-で6位入賞したVincent Muda選手とTycho Muda選手、カナダからはAlexander Walker選手とRebecca Zimmermann選手、さらに両国コーチ含め計6名が招待されました。オランダのVincent Muda選手は、残念ながらエルゴ大会当日は体調不良により参加することが出来ませんでした。他3名は力強い漕ぎで会場を沸かしてくれました。特にTycho Muda選手は、大会一週間前から瀬田川での合宿をこなした上での測定であったにも関わらず、余裕のある漕ぎで軽量級日本記録を上回る6分15秒2という好タイムでフィニッシュ。オープン選手も含めてトップタイムで圧巻の優勝となりました。



【測定中に余裕の笑みを浮かべるTycho Muda選手】



【地元中学生を指導するZimmermann選手】

また、エルゴ大会後に行われた招待選手とのトークセッションでは、海外トップ選手、コーチの生の声を聞くことが出来ました。

その中で日本の選手の印象を、「体力的に非常にタフだが、技術面で課題がある。リングやテクニックを少し工夫すれば劇的に良くなると感じた。」という言葉が有り、国内で一般的に言われている日本人選手の特徴と逆の印象を感じ取っていた事はとても興味深く感じました。

この他に大会以外の場でも講習会や合同練習等が行われ、多くの方と交流を持つことが出来ました。

●お知らせ

◇年度内のご注文はお早めをお願い致します。

年も明け、年度末も近づいてきました。それに伴い例年注文数が増えて参ります。在庫切れとなった場合、発送が遅くなる可能性もございますので、商品のご注文をされる場合、お早めにご連絡頂きたいお願い申し上げます。

BOAT TIMESの配信停止を希望される方は、お手数ですがFAX(077-598-2505)またはE-mail(kuwano@k-boat.co.jp)で弊社までご連絡下さい。また、ご意見・ご感想などもお待ちしております。次号は2/20頃発行予定です。